

ふるさとの魅力 再発見

とよん

十二・四

公園

里山は魅力が一杯

諫早市ビタミンプロジェクト実施事業

ガイドブック

諫早市退職校長会とによん公園魅力発信広報委員会

あいさつ

～ 子育てに自然体験の活用を ～

子供たちに、屋外での自然や生活体験を思いっきりさせたい。それは、教職に携わってきた者の共通の認識です。かつては、近くの広場や里山へ出掛けて行っただけの遊びや手伝いなどが日常でした。そういう生活の中で、自然の成り立ちや営みを体感し、生活の知恵を身につけていったような気がします。自然の素晴らしさや畏敬の念を抱いていく中で故郷のよさも身に付いていったように思います。

ところで、現代では、社会情勢の変化に伴う生活様式等の変容により野外での伸び伸びとした自由な活動が乏しくなっているようです。それに連れて、里山の手入れはしだいに行き届かず“やぼくら”になってしまい近寄り難くなっています。親子で里山へ出掛けようにも二の足を踏んでしまうのが現状のような気がします。しかし、この大地や自然の中での生活に根付いたものの見方や考え方の基盤は、今の世情の中でも大切に守っていききたい要素であろうと考えます。

そのような情勢の中、各方面の配慮により、青少年自然の家やこどもの城、或いは、各地域等で、子育てへの取り組みが多くなってきているのは心強い限りです。より一層の活用を勧めていきたいものです。

諫早市退職校長会でも「子育てや地域づくりの応援」を主要活動の一つに挙げています。今回、各方面での大がかりな取り組みに加えて、日常的な家族のふれあいや子育ての場として、具体的な活動の場所を紹介しよう、と企画しました。

市内各所にある既設の公園の中で、里山や自然の体験に適した場所を全方位的に満遍無く配慮して活用し易いよう魅力を発信広報していこう。との趣旨です。

きっかけは、退職校長会員による公民館講座“十二支公園”巡りの成果です。地域の憩いの場として整備された公園でしたが、利用者が少なくなり、地域による維持管理も過疎化等により行き届かなくなっている場所もあります。それらを「里山公園」として紹介し、再生活用してもらいたいということです。そして、退職校長会員による「地域の名所巡りウォーキング」の成果も参考にしながら、旧五町それぞれに“いちおし公園”を地域の方々に相談しながら、知恵を借りながら選定してみました。企画推進のために実行委員会を組織し、会員による精力的な取り組みによって短期間で順調に進み、加えて、写真クラブ員の協力により的確な美しい写真で構成することができました。

諫早市「ビタミンプロジェクト事業」に採用して頂いたことは心強く、推進の原動力となり、また、的確な示唆もいただきました。心より感謝申し上げます。

キャッチフレーズとして、“家族で里山へ出掛けよう”、そして“故郷のよさを探そう”“わが故郷を地域で盛り上げよう”できれば“里山を猪から取り戻そう”など挙げてみました。いかがでしょうか。自然の中での子育てに、心身の健康づくりに、そして、地域づくりの活性化に、少しでも繋がっていければ幸いです。

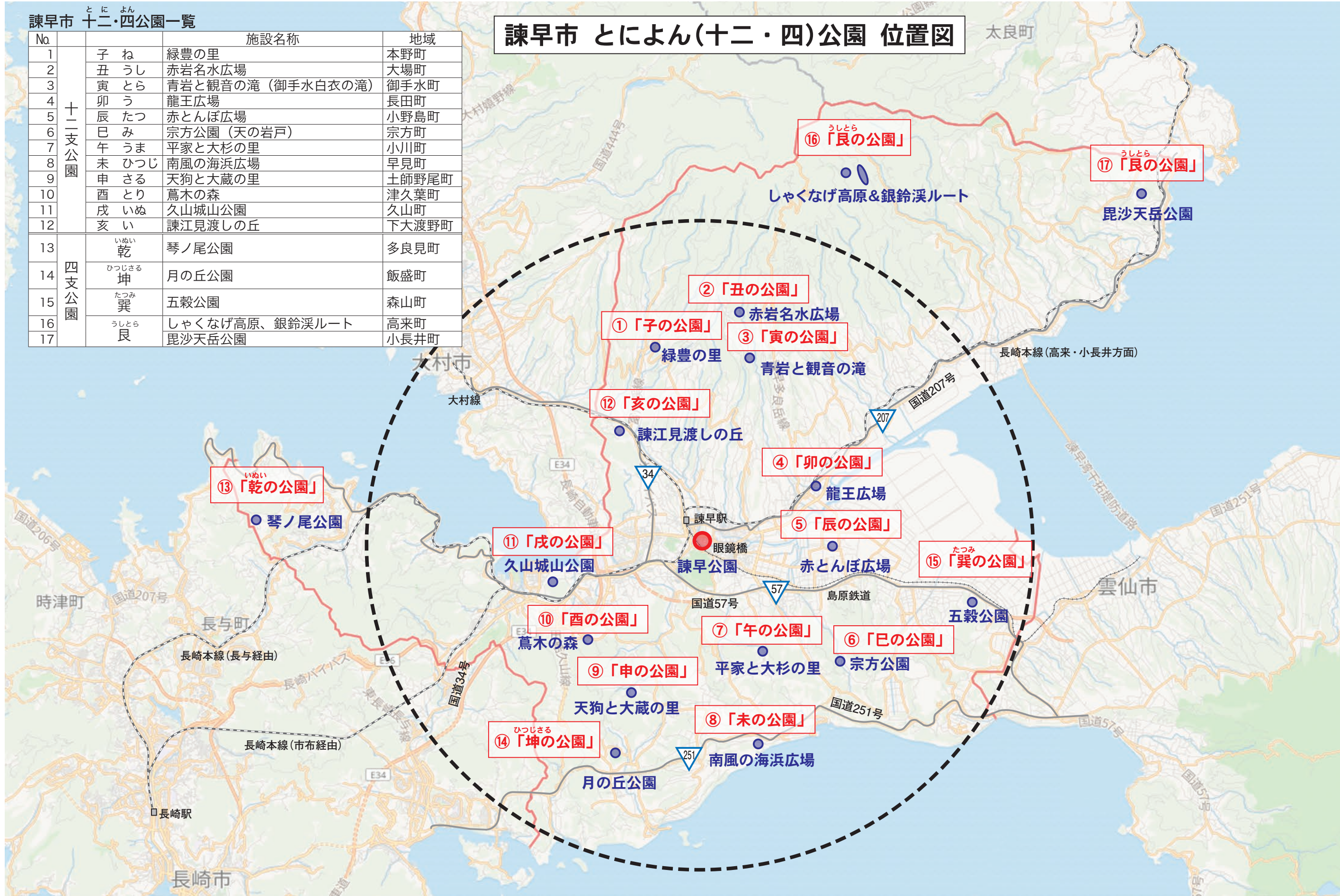
これからの「withコロナの時代」への対応策として“自然への回帰”にも通じるのではないだろうかと期待しています。

諫早市退職校長会 会長 副島 猛俊

諫早市 とによん 十二・四公園一覧

No.		施設名称	地域
1	十二支公園	子 ね 緑豊の里	本野町
2		丑 うし 赤岩名水広場	大場町
3		寅 とら 青岩と観音の滝（御手水白衣の滝）	御手水町
4		卯 う 龍王広場	長田町
5		辰 たつ 赤とんぼ広場	小野島町
6		巳 み 宗方公園（天の岩戸）	宗方町
7		午 うま 平家と大杉の里	小川町
8		未 ひつじ 南風の海浜広場	早見町
9		申 さる 天狗と大蔵の里	土師野尾町
10		酉 とり 鳶木の森	津久葉町
11		戌 いぬ 久山城山公園	久山町
12		亥 い 諫江見渡しの丘	下大渡野町
13	四支公園	いぬい 乾 琴ノ尾公園	多良見町
14		ひつじさる 坤 月の丘公園	飯盛町
15		たつみ 巽 五穀公園	森山町
16		うしとら 良 しゃくなげ高原、銀鈴溪ルート	高来町
17		良 毘沙天岳公園	小長井町

諫早市 とによん(十二・四)公園 位置図



【とによん《^と十二・^{よん}四》公園】魅力発信事業 名称決定の経緯

本事業は、ビタミンの卵事業から着手し、旧諫早市の各地に点在する『十二支公園』に着目して広くアピールしようということから始まりました。「十二支公園」の魅力発信に繋がたいという発想でしたが、事業推進途上で、市の担当部局から旧五町を加えた新諫早市に相応しい公園広報が望ましい旨のご教示をいただきました。その後、構想を一新して五町のイチオシ公園を加え、五つの公園を方向から捉えた四支公園としてまとめて広報することになりました。

四支というのは、**艮**、**巽**、**坤**、**乾**のことで、これはいずれも方位に関連する漢字です。小長井と高来が北東の方向にあることで **艮**【ウシトラ】の公園、森山が東南の方向にあって **巽**【タツミ】の公園、飯盛が南西の方向にあって、**坤**【ヒツジサル】の公園、多良見が北西の方向にあって **乾**【イヌイ】の公園ということになります。元々十二支の支が方向を表す漢字でもありましたので、方向に因んだ意味の十二支と四支を合わせて「とによん」【十二・四】公園という名称に改め、市の担当者と打合せた結果、名称を決定しました。

《……………ちなみに方向を示す基点は、すべて諫早公園（眼鏡橋）です。……………》

四支公園の各町イチオシ公園は下記枠内の通りです。
(公園決定に当たっては、各支所との話し合いの中で決まったものです。)

- * 高 来 町…①「しゃくなげ高原」：(多良岳広域林道沿い)
②「銀鈴溪ルート」：(轟の滝上流の心癒しの“森林浴の森”)
- * 小長井町…「毘沙天岳公園」：(火山噴火の跡を残す小長井富士とその周辺)
(昔を語る岩脈と火山堆積物)
- * 森 山 町…「五穀公園」：(多良岳、雲仙岳、諫早湾一帯、諫早干拓地が展望できる大パノラマの展望所とその周辺)
- * 飯 盛 町…「月の丘公園」：豊富な遊具施設とその周辺：(各種運動広場、温泉施設、などの集いの広場、心癒しのウォーキング道)
- * 多良見町…「琴ノ尾公園」：(多良山系、大村湾、長崎空港など全方位的な展望が可能な山頂公園)・(昔を語る琴ノ尾烽火台跡)

※広報委員会からのお願い

- * 十二支公園も四支公園も、それぞれが地域の宝です。その魅力を精一杯引き出して写真に収め、わかり易い解説を加えて発信したいと努力しました。
この冊子『ガイドブック』を手にとって、実際に現地に行ってみて、その魅力を感じ取ってください。故郷の良さが身に染みてわかると思います。

十二支・干支関連 参考事項

* 五行について

- 古代中国の殷の時代（紀元前1000年頃）の説による5つの元素のこと。
- 人間の生活に必要な5つの材料を指している。
- 五行とは、**木**^き**火**^ひ**土**^{つち}**金**^{かね}**水**^{みづ} の総称。
- 天体で不規則な運行をする5つの星を発見し、災害がこの星と関係があるのではないかと考え、星の循環で全ての現象を説明しようとしたのが**五行説**である。

* 十干について

^{こう} 甲 (きのえ)	^{おつ} 乙 (きのと)	^{へい} 丙 (ひのえ)	^{てい} 丁 (ひのと)	^{ぼう} 戊 (つちのえ)
^き 己 (つちのと)	^{こう} 庚 (かのえ)	^{しん} 辛 (かのと)	^{じん} 壬 (みずのえ)	^き 癸 (みずのと)

- 十干は、殷の時代から行われていた日を数える方法である。
- 1カ月を10日ずつの3旬【上旬・中旬・下旬】に分けて、旬の1日目を「甲」、2日目を「乙」としたのが起こりである。その後、1から10までの記号として用いられるようになった。
- 五行をそれぞれ陽の気を表す「兄（え）」と、陰の気を表す「弟（と）」とに分けたのが十干である。「きのえ」「きのと」「ひのえ」……となっていく。

* 十二支について

^ね 子	^{うし} 丑	^{とら} 寅	^う 卯	^{たつ} 辰	^み 巳	^{うま} 午	^{ひつじ} 未	^{ざる} 申	^{とり} 酉	^{いぬ} 戌	^い 亥
鼠	牛	虎	兎	竜	蛇	馬	羊	猿	鶏	犬	猪

- 十二支は、月を数える方法である。1年12カ月の名称として使われたのが起源であり、その後記号として用いられるようになった。
- また、方位や時刻、年を表す呼称としても用いられる。十二支による時刻は、日本国内では9世紀ごろから明治時代頃まで使われていたものである。
- 月の十二支の語源は、草木の発生、繁茂、成熟、伏蔵の過程の順序を12の段階に分けて名付けたものです。
- 月の十二支が12カ月の各月の特性を示したものであるように、もともと時の十二支は、一日における12刻の特性を示したものでした。また、方位の十二支は、十二支の12方位の特性を示したものでした。

十二支と暦の関係（草木の成長過程と十二支の関連）

【子】……子（ネ）は、旧暦の11月を表し、子は【孳】（ふえる意味）で、新しい生命が種子の中で萌え始める状態を表しています。

【丑】……丑（ウシ）は、旧暦の12月を表し、丑は【紐】（ひも・からむ意味）で、萌え始めた芽が種子の中でまだ十分に伸びていない状態で、春を待つ様を表しています。

【寅】……寅（トラ）は、旧暦の1月を表し、寅は【蟄】（うごく意味）で、草木が春の温かさで地上に芽を出す状態を表しています。寅の月は正月であり、立春の時でもあります。

【卯】……卯（ウ）は、旧暦の2月を表し、卯は【萌】（しげる意味）で、地上に芽を出した草木が活発になり、いよいよ地面を覆うようになった状態を表しています。

【辰】……辰（タツ）は、旧暦の3月を表し、辰は【振】（ふるう・ととのう意味）で、春の温かさもたけなわとなり、草木の形が整って活力が旺盛になった状態を表しています。

【巳】……巳（ミ）は、旧暦の4月を表し、巳は【巳】（やむ意味）で、草木が繁茂の極限に到達した状態で陽気が極まりこれ以上盛んにならず、静止する様を表しています。

【午】……午（ウマ）は、旧暦の5月を表し、午は【忤】（つきあたる・さからう意味）で、草木が繁茂の極限を過ぎ、衰微の方向へ向かい始めた状態を表しています。

【未】……未（ヒツジ）は、旧暦の6月を表し、未は【味】（あじの意味）で、草木の果実が成熟して滋味が加わり出した状態で、陰気が伸び陽気が退く様を表しています。

【申】……申（サル）は、旧暦の7月を表し、申は【呻】（うめく意味）で、草木の果実が成熟して滋味が増し、締め付けられて固まっていく状態を表しています。

【酉】……酉（トリ）は、旧暦の8月を表し、酉は【廼】（ちぢむ意味）で、草木の果実が成熟の極みに達した状態で、陰気が伸び、静かに英気を養う様を表しています。

【戌】……戌（イヌ）は、旧暦の9月を表し、戌は【滅】（ほろぶ・切る意味）で、草木の葉が枯れ落ち死する状態で、陽気が衰え冬に備えて根に気を集める様を表しています。

【亥】……亥（イ）は、旧暦の10月を表し、亥は【閼】（とぎす意味）で、草木がすでに凋落して、生命の力が種子の内部に包み込まれてしまった状態を表しています。

『地域の宝 十二支公園』

ネズミ子ね



子の公園 (緑豊の里) …本野町



木造の祠堂に抱かれ公園を見守る六体の仏像



六体のうちの二体の仏像 (後ろは展望台)



①
レインボー
ロードから矢
印の方向に上
がる



②
電柱の手前を
矢印方向へ左
折



③
矢印方向へ杉
と桜の並木道
を直進

子

小学校跡地の緑豊かな広場
六体の石仏群が見守る緑豊の里



1 ^ね子の公園（緑豊の里）……本野町

【P、WC アリ】

尋常小学校跡地と言われるこの公園は、こんもりとした山奥にある。公園内には広場もあり展望台もある。周囲には雑木が繁茂し、平坦な土地も猪が混ぜ繰り返した様が見える。公園内にも桜があるが、公園までの沿道には桜が並木状に植樹され、桜の花が咲く頃はその美しさが想像される。広場は、工夫次第で学習広場としても活かされる貴重な場所である。遠足の場所としても推奨できる。規模の小さい学級遠足や子ども会遠足などを勧めたい。公園の右手山中には『知行合一』と刻んだ開設記念の石碑があり、展望台奥には六体の仏像が鎮座する屋根付きの祠堂もあって、由緒ある公園である。残念ながら展望台からの景色は期待できない。見所が何カ所もあって巡るのも意義がある。



満開の公園の桜と道路脇の杉林



公園道路を見つめる並木の八重桜



桜の並木道を彩る八重桜



「知行合一」の碑

- ・十二支公園設置の構想は、市当局の発案で始まった。国や県、議会の承認を経て平成7年に完成している。完成記念の一つとしてこの公園入口右手の山極に碑が建立された。『知行合一』の文字が刻まれている。
- ・その意味は、知ることも大事だが、行動が伴わないと何事も成就しないということらしい。じっくりかみしめたい熟語である。
- ・知行合一の意味に心を寄せ乍らこれが私達の活動の指針となり、努力目標ともなった。



公園駐車場脇にある
トイレと貯水槽



正面入口を見た公園、
手前が駐車場



展望台から逆方向を見た
公園広場



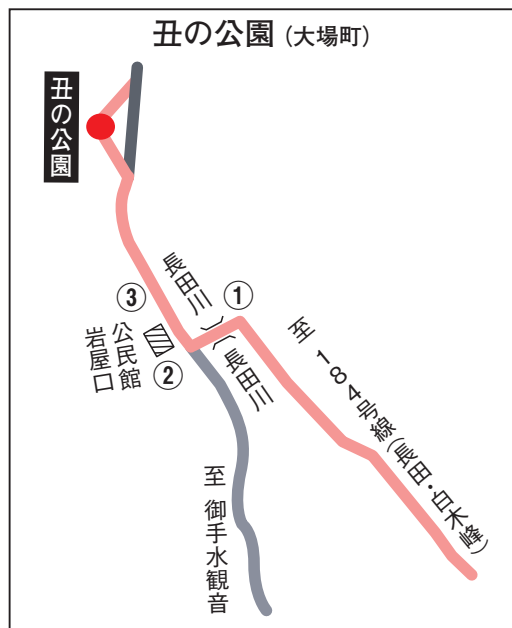
公園広場奥にある頑丈な
展望台

『地域の宝 十二支公園』



丑^{うし}

の公園 (赤岩名水広場) …大場町



大岩の近くで芽をふいた藤が大木となり、大岩に寄りかかったように成長している



岩の間から少量の水が湧き出している

含有鉄分の酸化によって岩が赤くなっている

丑

林の中を貫く壮大な幅100mの赤岩
岩間からの石清水 大岩を抱える藤の大木



① 橋を渡った正面が岩屋口公民館、元瀬々田分校方面から下った橋から矢印へ



② 岩屋口公民館ここから歩いて5分で届く



③ 川沿いに登るとすぐ目的地



2 **うし 丑の公園** (赤岩名水広場) ……大場町

【P 公園下の道路に2台程可、WC なし】

高さ20m、幅が100mの赤岩が木々の間から見え隠れして見応えのある場所である。岩が赤いのは含有鉄分の酸化による。広場横の大岩の付近から藤の大木が繁茂していて、藤の花咲く季節には訪れたい場所である。根張りから立ち上がりの姿が見事で、周辺の木々の伐採など整備が進めば、大岩や藤の大木の姿が観察可能となり楽しめる。広場の中央付近に社があって公園らしさを保っており、曇りこまれた岩の間から清水が湧き出している。「名水広場」の名にふさわしい風情のある場所である。惜しむらくは水量が少ない。長田・白木峰線から至る橋を渡った所に岩屋口公民館がある。ここから歩いて辿ることも出来る。5分ほどで辿り着ける。



方向指示板を見て、左手道路を登ったところに広場がある。(中央付近に社)



広場の方から見た一段上に建立された社 (内には仏像が祀ってある)



藤が根付いた大岩の傍に立つ石仏

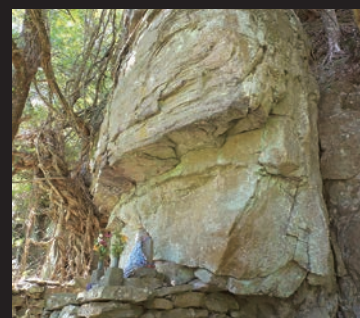


藤の花【大木・古木】

- ・藤とは、縄のようにクネクネしたツル状の植物の総称をいう。マメ科に属している。
- ・4、5月ごろに薄紫色や白色の穂のような花をつける見応えのある植物である。
- ・赤岩名水公園にあるこの藤は、大きな赤岩にしがみつくような格好で、岩を抱え込むように大きく育った大木になっている。根元の大きさや幹の立ち上がりの素晴らしさ、大樹に育った全体的な姿に圧倒される。心を揺さぶられるような感動を感じる。



社の後背に雄雄しく立つ大岩



藤が根付いた付近の大岩 スックと立つ姿が格好いい



広場先の下り階段付近の大岩と林の中に垣間見える大岩

『地域の宝 十二支公園』

寅とら



寅の公園 (青岩と観音の滝) …御手水町



青岩は苔生した岩を言うが、大岩の葉理に沿って亀裂（さけ目）が入ったものをうまく利用して積み上げている。下の石には磨崖仏が線刻されているようである



広場奥に静かに佇む神社



守り本尊の千手観音さま



黄色の看板から少し登っていく



黄色の看板から矢印方向へ上がる



方向指示板の方へ上がると目的地

寅

苔生した青岩 数多い磨崖仏・観音さま
古色蒼然たる空間 流れ落ちる「白衣の滝」



3 ^{とら}寅の公園 (青岩と観音の滝) ……御手水町

【P、WC アリ】

山岳仏教の霊場として知られるこの公園には磨崖仏がある。岩に刻まれた姿は感動的である。青岩の由来は、苔むした岩の姿からきている。修験場として知られる御手水観音は自然探索広場ともなっている。14世紀半ばの開山と言われている。奥の方の岩場からは滝が流れ落ち、「御手水白衣の滝」と呼ばれている。夏は市民の避暑地としても親しまれ、各地からの訪問客も多い。心を洗う修験場の名にふさわしく、他の公園では見られない霊験あらたかな神域を醸し出しているパワースポットである。滝の周辺には、十一面観音像や各種の地蔵菩薩さんが祀られていて磨崖仏と合わせ貴重な文化財である。奥の方の神社には本尊として千手観音や不動明王が祀られている。



磨崖仏【三十三観音】

- 観音霊場として知られるこの地には、参道左手の岩に線刻された40数体の磨崖仏がある。技術的にも価値のある彫り物である。
- 諫早市内には他に、富川の五百羅漢の磨崖仏、慶巖寺及び久山の陽刻された三十三観音の磨崖仏がある。いずれも見応えがある。
- ここの磨崖仏群は、江戸時代を中心に長年月をかけて彫り込まれたもので、相撲取り衆の刻名もあり、寄進されたものである。近隣からも遠くからも訪れる人が多い。

▲ 十一面観音さまをはじめ数多くの地蔵菩薩さんがまとまって立っていて見応えがある

▶ 苔生した青岩の中に流れ落ちる「白衣の滝」と流れ落ちる水が集まった池の中を泳ぐ鯉たち



陽に当たって白く光る「白衣の滝」

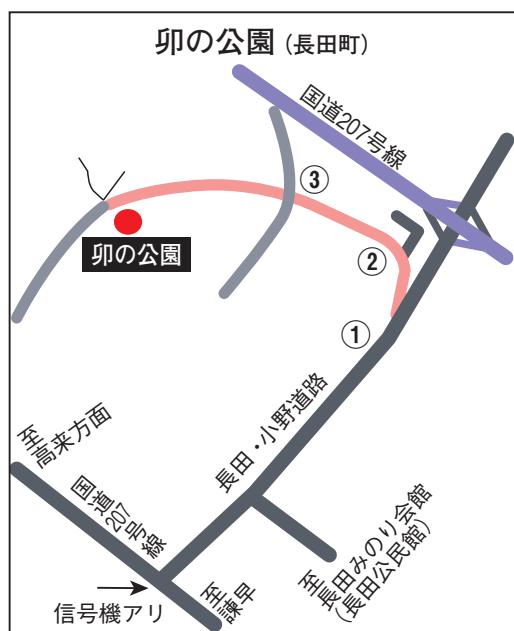
御手水 観音の滝

- 御手水町にこんもりとした森に包まれた観音霊場があるが、大杉が聳え立ち、岩峰の大岩からは滝が流れ、清水が湧き出ていて池を作り、涼感と静寂感を醸し出して深遠な趣がある。中でも、流れ落ちる滝は絶え間なく流れ、陽の光を浴びてキラキラと輝いて見えることから「御手水白衣の滝」と呼ばれている。
- 滝の落ちる近所には、十一面観音をはじめ、各種の地蔵菩薩さんが立っておられ、奥には千手観音を本尊とする神社が祀られている。このように、ここは霊験あらたかな観音霊場として知られ近隣からも遠くからも参詣者が多い。夏場は、涼を求めてやってくる人も多い。滝に打たれて心を静める滝行のために訪れる人もいる。

『地域の宝 十二支公園』



の公園 (龍王広場) …長田町



中央は、雨乞いの神、水の神で知られる「龍王明神」塔、右手の碑は「長田村義田碑修復記念碑」



① 長田・小野線矢印のように左折する



② 長田道路から入ったらすぐに左折する



③ 交差道路を矢印方向先へ、近くに卯の公園がある

卯の公園 龍王広場

田を守る神として龍王を祀っています。雲を起こし雨を呼ぶと言われている神様だということです。

水田には、水は絶対なくてはならないもので、私たちの先祖が大事に祀ってきた訳も、そこにあると思われます。

卯
水の神・雨の神 龍王明神を祀る広場
昔を物語る田園地帯を見守る桜と銀杏の大木



4 卵の公園（龍王広場）……長田町

【P 公園前に2台程可、WC なし】

水田地帯として栄えた長田町の五穀豊穡、農作業の安全を祈願し、水の神で知られる龍王明神の碑が建立され祀られていて、『龍王広場』と言っている。龍は、空に昇って雲を起し雨を降らせるという想像上の動物であるが、子どもたちにも、干拓を完成させた先人たちの苦労に思いを馳せながらその歴史を学んでほしい場所である。昔の田園風景等の写真付きの説明看板があれば往時の様子を想像し、学習が深まりそうである。

公園内に栄える桜の木と銀杏の木が季節感を添えている感がするし、桜と銀杏がこの公園の神木としてその役割を果たしているように思われる。規模の小さい公園ではあるが、管理が行き届いている。この公園は長田・小野道路のすぐ近くなので見つけやすい。



公園周辺の広々と開けた田んぼ。稲を刈り取った跡の風景



公園そばの水門（水の流れを調整する開閉門）



公園そばを流れる川の土手の花園にきれいに咲いた花



干拓に関わった功労者の方々がわかる碑
長田村義田碑修復記念碑

- ・卵の公園の奥の方にこの碑があるが、干拓に関わった功労者の氏名が刻字されている。諫早家の子孫だった諫早英雄氏を始め、その関係者、議員団、篤志寄付者、耕作者など、発起人の人たちが当時の長田町内会長名と共に表面に刻まれている。
- ・当時の人たちの新田開発にかかる思いや苦労が偲ばれて頭が下がる思いである。
- ・公園を象徴する龍神は、水の神・雨の神として知られ、龍王明神として祀られている。



「龍王明神」と刻まれた塔が建立され、五穀豊穡を祈り水田を守っている



公園中央部にどっしりと建立された碑であるが、碑文を読むことができない。干拓完成記念碑と思われる



田んぼを耕やす機械とエサをあさる白サギ



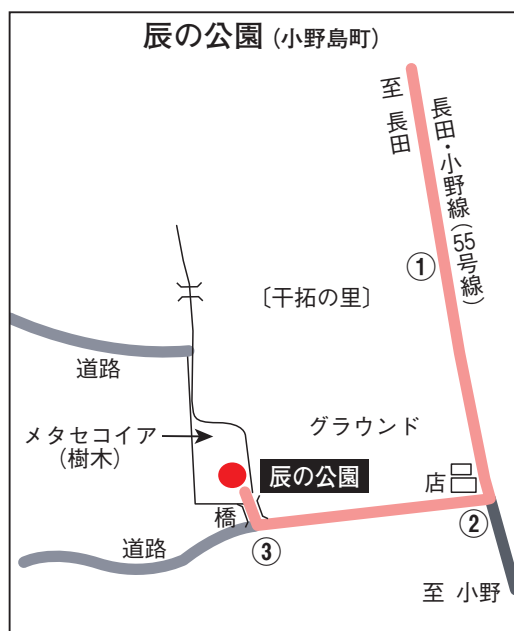
標柱と後ろの桜の木・水門

『地域の宝 十二支公園』

辰



の公園 (赤とんぼ広場) …小野島町



蔦はブドウ科の多年性のつる草で葉は秋になると美しく紅葉する。撮影当時は枯れた蔦が絡まっていたが今はきれいに取り払われている



公園に隣接する広場は市営ソフトボール場として広げられ、ソフトボールは4面使える。またグラウンドゴルフも可能で、みんなの集いの広場となっている



① 「干拓の里」道路を直進、先のT字路をめざす



② 池田酒店先のT字路を矢印方向へ



③ 辰の公園入口奥は駐車場

辰

緑陰の主役 生きた化石のメタセコイア
戦時中の建造物「大水槽」、隣接する球技場



【5】^{たつ}辰の公園（赤とんぼ広場）……小野島町

【P、WCアリ】

小野島町のほぼ中央部に位置しているこの公園は、諫早干拓の内地にあり、点在する十二支の中でも珍しい公園である。公園の隣接施設として市営ソフトボール場があり、三世代交流広場として知られ、ソフトボールは、4面が使用可能である。

小野島には戦時中飛行場が造られ、航空機乗員養成場として練習機が飛び交っていた。実用機と区別するために、オレンジ色に塗られていたことから練習機は「赤とんぼ」といわれていた。戦争末期には特攻要員として飛び立ち、若者の半数が戦死したという。

公園内にはメタセコイアが十数本植栽されて、緑陰をなして癒しの場所である。駐車場北側の古い貯水槽は、歴史的建造物として価値があり、今の姿で残して欲しい。



公園内から見えるメタセコイアと運動広場。ソフトボールが4面使える程の広さでグラウンドゴルフも楽しめる



公園内では唯一の遊具である。めったに見られないがシーソーを親子で楽しむ姿を見ることがある



メタセコイア群の手前に花開くユッカ。ユッカはユリ科の常緑低木で、初夏から秋にかけて白い花をつける



メタセコイア（アケボノスギ）

- ・中世代（約2千万年前頃）の化石種として知られていたが、1945年に中国奥地で現生種が発見された。遺存種（生きた化石）として有名。
- ・それ以来、世界各地で栽培されるようになった。
- ・諫早市でも長崎国体の折、運動公園をはじめ、各地の公園や学校などに記念樹として植えられた。
- ・生育が早く大木に育っていて、夏の緑葉、秋の褐色葉と、独特の並木風景を楽しませてくれている。



九三式陸上中間練習機（赤とんぼ）

（白岩町有志提供）

赤とんぼ

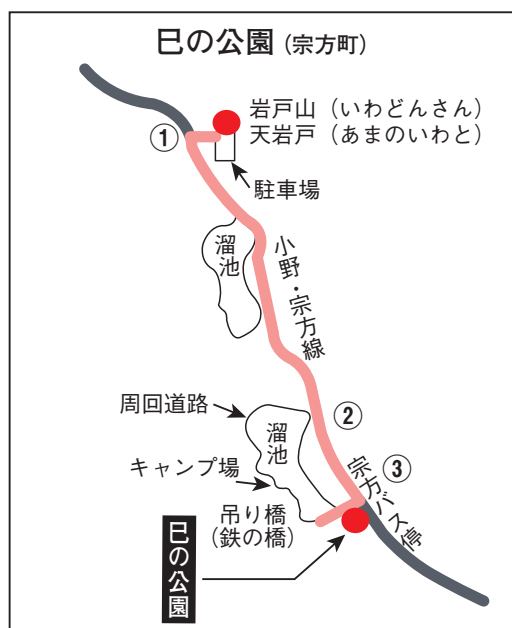
練習機の愛称。実用機と識別するためにオレンジ色に塗られていたことから赤とんぼと呼ばれた。数種の型があるが、主に九三式陸上中間練習機（中練）と三式陸上練習機（初練）が使用された。プロペラや主翼の枠組みなど一部が木製で、複葉（主翼が上下2枚）の羽根は布張り。戦争末期には実用機が不足したため、中練が一部特攻機に改良され、250キロ爆弾を積み特攻に出撃した。航空機乗員養成所は1940（昭和15）年に飛行場、41年9月養成所の起工式がそれぞれ行われ、飛行場未完成のまま42年4月長崎地方航空機乗員養成所は開所した。開所時の所長は藤瀬勝海軍大佐。飛行場は諫早市小野島町の干拓地の一角を、近くの山を削りトロッコで運んだ土で埋めて造った。作業には諫早市民、近隣の村民、学校生徒、長崎刑務所の収容者、朝鮮人など多数が動員された。

『地域の宝 十二支公園』

巳の公園



巳の公園 (宗方公園) …宗方町



宗方のバス終点から下がった広場の先に吊り橋があり、橋を渡った道を進むとキャンプ場がある



この寺は上の広場（現在駐車場）付近にあったものを現在地に移築したもので「痴雲寺」という寺号で知られている

宗方 痴雲寺堂内



大きな家の横から岩戸山、天岩戸入口



宗方溜池横からバス宗方終点をめざす



宗方バス停（終点）、溜池周辺が巳の公園

巳

巨大な岩峰「天の岩戸」、湖面を泳ぐ野鳥たち
野外広場のシンボル「吊り橋」と「キャンプ場」



6 **み 巳の公園** (宗方公園) ……宗方町

【P、WC アリ】

宗方公園の1 kmほど手前には小野の金比羅山の麓にある「岩戸山」の名で親しまれている奇岩がある。この岩穴や周辺には、いろんな石仏が祀られ、祠もあって訪れる人の心のよりどころともなっている。「痴雲寺」という珍しい名の寺院がある。元々は駐車場にあった寺を現在地に遷したという。弘法さん祭も細々と近隣組で行っているという。周辺の桜も楽しめる。桜の時期は見るところが多く、結構楽しめる場所である。2つの岩峰で出来た穴は、^{あまのいわと}天岩戸という話も残っている。

宗方の2つの溜池には多くの水鳥が泳いでおり、四季折々の自然の景観が水面に映えて美しい。上の溜池の対岸は、キャンプ場として整備され、自然と一体になれる野外交流広場である。宗方のバス停の先には吊り橋があり、そこを起点として上の溜池の周遊ウォーキングコースもあるので、散策コースとして楽しんでも面白そうである。



キャンプ広場から溜池を見た写真。
紅葉したモミジ、周回道路の一部



岩峰は、2つの大岩が重なって出来たもので「岩戸山」と呼ばれている



岩峰の一部であるが見る場所によってはさる岩のようにも見える



^{あまのいわと}天岩戸 ^{いわどんさん}(岩戸山)

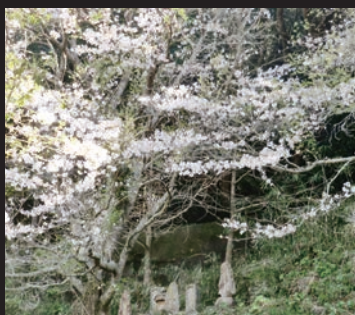
- 金比羅山^{ふもと}の麓には、大きな岩が重なり合うようにそそり立つ岩峰がある。地域の人はこの大岩を『いわどんさん』と言って崇めておられる。大岩と大岩の間には社が建立されている。
- この岩峰を別名「天岩戸」だという説もある。天岩戸は、神話の中の高天原にあるという岩穴の戸のことで、日の神(女神)の天照大神が高天原を治めていたといわれている。この伝説に因んでこの公園の岩峰を「天岩戸」といったと想像される。



岩峰への入口付近に清水をためた池があり小さな鯉が泳いでいる



バス終点下の広場と遊具。桜の季節には心が弾む



駐車場山手に見える数基の地藏さんときれいに咲いた桜



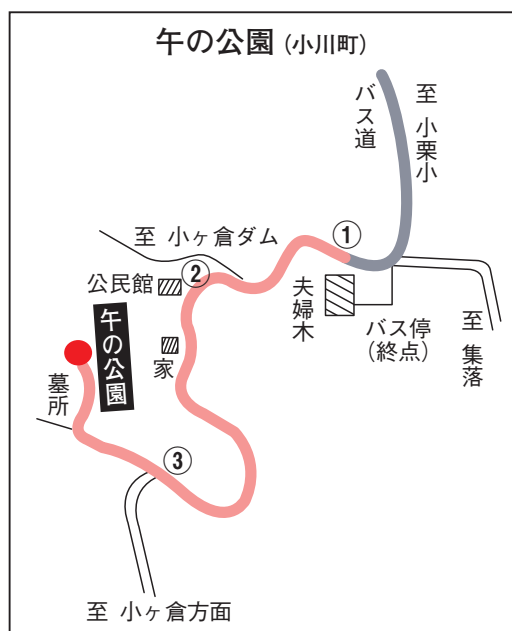
岩戸山上の広場に咲き誇る桜には感動を覚える

『地域の宝 十二支公園』

午うま



の公園 (平家と大杉の里) …小川町



女夫木の大杉

- この地の呼び方に「夫婦木」と「女夫木」の二通りがあるが、通称は「夫婦木」で通用している。ここの大杉が、昭和50年に国指定の天然記念物に指定される時に「女夫木」で登録されたことによって「女夫木」が使われたと思われる。大杉は高さ32m、幹回りが9m、樹齢650年以上という巨木で古木である。
- 国内でも樹齢、大きさ、樹容、保存の状態などいずれも優れているとして指定を受けたもので、昔は2本の大杉があって、夫婦木の名前になったようである。雷が落ちたということなので、1本になったのはそれが原因なのかもしれない。その木には、根元付近に傷跡がある。倒れないように添え木で強化されている。大きく育ち、見事な姿で感動を覚える。



① 夫婦木横から右折、ダム方向へ下りる



② 公民館横の山道を行くと山中に入る



③ 小ヶ倉集落に向かう道路の二股道を右手(矢印の方向)に向かって墓所をめざす

午

集落と大杉の老木・ダムを見晴らす公園の丘
落人伝説を物語る 近場の山中の安徳天の碑



7 ^{うま} 午の公園 (平家と大杉の里) ……小川町

【P、WC アリ】バス停

この公園は、平家の落人伝説のある集落の向かい側（西側）に見える丘陵地にある。車は、国指定天然記念物の「夫婦木」のバス停の大杉の場所から西の方へ50mほど下ったところに公民館がある。ここから山に向かう道路を上って、二股道の右の方を行き、墓所を下る。下り終えると緩やかな登り階段のある場所が見えてくる。午の公園である。公園周辺のツツジは、手入れするとツツジ公園として名を馳せることにもなり、集落の樹齢650年以上の大杉、ダムが展望できる安らぎの場所となりそうである。整備が進めば、遠足の場所としても推奨できるおススメの場所の一つとなりそうである。

集落後背地の山中には、平家方の安徳天皇や二位尼の碑がひっそりと祀られている。



墓所を下りた広場からツツジが咲く階段を登ると公園の中心部に辿り着く（下の広場は駐車可）



丸い石組みの土地の中央部に碑が祀ってある



東屋付近から夫婦木の大杉と落人伝説の集落が見える



安徳天の碑、二位尼の碑

- ・源氏に敗れた平氏方の安徳天皇と二位尼の一行は、九州方面への逃避行を始めます。島原から有喜を経てこの地に逃れたものの、源氏の追っ手【伏兵】に殺されます。
- ・夫婦木の村人たちは、石碑を建てて手厚く葬りました。現在、島原街道筋の森の中に300m離れて、二つの石碑が建っている。
- ・「安徳天」と刻まれた鳥居の笠木端の石碑が建立されているが、天皇と銘打つには恐れ多いとして天で止めて、神名にしたという。



公園入口の階段脇にトイレがある（この広場に1～2台駐車可）



バスの夫婦木終点と大杉（この広場に簡易トイレがある）



元々は2本の大杉があったが雷が落ちて1本はなくなり1本は傷ついて残ったと思われる。キズ跡の根元が痛々しい



丸い石組みの場所中央に猿田彦大神と刻まれた石碑がある（明治31年建立の文字が読める）

『地域の宝 十二支公園』



未^{ひつじ}

の公園 (南風の海浜広場) …早見町



① 国道251号線よりゆるやかにカーブして下の方に下る



② T字路に差し掛かったら右方向へ50m進み下の方へ下る



③ 右手の公民館、逆S字カーブを曲がると目的地に着く



漁業を営む人たちの豊漁と安全を祈願するため建立された。エビスさんが海を見つめておられる



その昔のことである。旧暦10月(神無月)に出雲に出向いた神を迎える行事(酒盛りをして夜通しで待つ)で、焚火が元で杜を焼失した。周りの木々を傷めつけ、焼けてしまっって焼け跡を残した

未

後背田畑を守る長い参道をもつ歳神社
珍木・老木・名木が誇りの防風林・防潮堤



国道251号線から早見集落を下って行くと眼下に海が見えてくる。公民館下の橘湾の海岸沿いに未の公園はある。十二支の中では珍しく海に面した公園で雲仙岳も遠望できる。

神社入口の鳥居をくぐって長い参道を行くと、奥の方に歳神社がある。明治時代に整備され、創建されたといわれている。長い参道は、北西側に広がる田圃を守る防風林・防潮堤の役割をもっている。この境内一帯には結構大きな樹木が繁茂していて、鳥居付近の珍木「カカツガユ」をはじめ、諫早の名木に指定されている大木に育った「クロガネモチ」「アラカシ」などがある。昔、神社が焼失し、周辺の木が焼けただれた。焼け跡を残す木が辺りに数本見つかる。往時を語る木々は、見応えはあるが、痛ましい。



歳神社の鳥居付近から見た雲仙方面（島原半島から天草方面まで見わたせる）



荒波から守るためコンクリートで囲った舟溜りや防波堤の道路の片隅に置かれたベンチ



未マークの標示板の後ろに見えるのはトイレと歳大明神鳥居



珍木カカツガユ

- ・クワ科の南方系の亜熱帯植物である。
- ・県内でも珍しい木で「諫早の珍木」に指定され、入口の鳥居付近で見ることができる。
- ・秋には黄赤色の桑の実状の実をつける。食べると甘くておいしく芳しい香りがする。
- ・地区の人は、この実を上等のお菓子という意味で「ジョウガシの木」と呼んでいる。
- ・木の語源は『和活が油』（かかつがゆ）といわれているが本当のところは分からない。
- ・大木クロガネモチや古木のアラカシもある。



大きな石コロのあるこの地は磯遊びが出来る。釣りも楽しめる



祭神は歳神で五穀豊穡を祈るための神様。江戸中期に建立し明治以降に整備された。境内は埋立地である



大木に育ったクロガネモチは諫早の名木の一つでもある



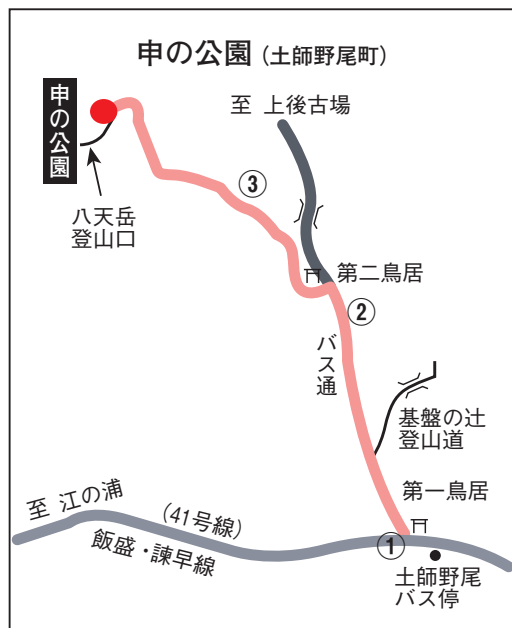
大木であったアラカシは、老木となって中ぐらいで倒れ若い芽が出てきている。名木の一つだった

『地域の宝 十二支公園』

申さる



の公園 (天狗と大蔵の里) …土師野尾町



正面は八天狗さん、右手を登ると土俵広場。左手の長い階段は八天岳登山口



① 飯盛線土師野尾バス停前の第一の鳥居をくぐる



② バス道脇の第二鳥居をくぐって進む



③ 曲がりくねった道を山中に入る。先に申の公園がある



土俵を見おろす紅葉した銀杏の大木とモミジ

申

民話「天狗と大蔵」で知られる里
八天狗の大鳥居、土俵、
聳え^{そび}た大銀杏の木



9 さる 申の公園 (天狗と大蔵の里) ……土師野尾町

【P 公園下に3台程可、WC なし】

その昔、江戸相撲で活躍したと伝えられる稲妻大蔵の生まれた地で、幼少の頃にこの地で農作業を手伝いながら近くの八天岳に住んでいたといわれる天狗に相撲を習い、鍛えてもらい大相撲でも活躍したという民話が残っている。テレビの日本昔話でも放映されたことがある。八天岳の麓の第3の鳥居をくぐって石段を右上に上がるとそこには土俵があり、平成の時代あたりまでは地域の人々が実際に相撲を奉納し、子供たちの相撲大会もあっていて、相当に賑わっていたようである。この鳥居の左手側の階段から登っていくと八天岳の頂上に着く。広場には四股を踏んだ足跡といわれる穴が広場の中に4つ残っている。頂上からは、以前橋湾がきれいに見えたが、今は見えにくい。登山途中には丸い3つの岩が重なったゴットン岩と言われる奇岩もある。



3つの階段の左の長い階段は、八天岳登山道の入口である



三方に分かれる階段の中央階段は八天狗と刻んだ笠木片が中段に建てられ、記念碑が上段に建立されている



八天狗第三の鳥居は3つの登り口が見られる特徴的な場所である



土俵

- ・この地は民話の里で知られる地域である。
- ・「日本昔ばなし」のテレビ番組でも紹介されたが、この地で生まれた稲妻大蔵はすくすく大きくなって仕事の手伝いをよくした。八天岳に住んでいた天狗と出会い、それから相撲をみっちり教えてもらったという。
- ・メキメキ強くなり、江戸相撲で大活躍して有名になって帰ってくるという話である。
- ・大銀杏が見下ろす申の公園内には大きな土俵があって、昔ばなしを物語っている。



土俵広場の上段に育った銀杏とモミジの大木。静かに土俵を見下ろしている



土俵広場を強固なものにした周囲の石垣。しっかりとした堅固な石積みである



公園入口手前の駐車スペースにある。木の根元に祀られている「草積みさん」と呼ばれる観音さんがおられる



中央階段を登った所から見た第三鳥居の裏側と公園入口

『地域の宝 十二支公園』



西

の公園 (蔦木の森) …津久葉町



久山・花の木三叉路から次の信号機手前を右折



通行止めの所から矢印方向が駐車場



駐車場先の小橋の先が西の公園案内鳥居



林立赤鳥居の階段を登り詰めたところにある「中核稲荷神社」



石段を登ると野面積みの石垣と東屋があるが、その先に赤鳥居が見えてくる

西

中核工業団地の農業・工業繁栄を祈る稲荷神社
荘厳な林立赤鳥居 安らぎの和風庭園風景



10 ^{とり}西の公園 (蔦木の森) ……津久葉町

【P アリ、WC は古い簡易トイレ】

この公園は、中核工業団地の中でも奥まった山間地に位置している。大鳥居をくぐると48基の赤い鳥居が林立し、上り詰めた広場に「中核稲荷神社」が創建されている。諫早地方では高城神社境内にもみられるが、この林立赤鳥居には圧倒される。中核稲荷神社は、五穀豊穡や商工業繁栄を祈願する神社である。地域の人たちが心を込めて祀っておられる。この公園内には、流水を利用した池があり、鯉が泳ぐ。池には、大きい鯉の姿を10匹程見ることが出来る。見ていても楽しい。見る場所や時間等にもよるが、鯉の池に映える赤い鳥居は、また趣がある。ここには和風庭園様式を採り入れた風景が広がり心和むふれあい広場となっている。公園内の中段には東屋や広場、石段があって風情のある場所といえる



公園入口の大鳥居とその先にある48基の赤い鳥居



稲荷神社特有の赤い鳥居が森の中を林立して登っている



大木に育った樹木の傍を登っていく林立した赤鳥居が続く



稲荷神社と鳥居

- 京都の伏見稲荷大社が有名だが、鳥居が朱色なのは、中国から伝わった風習で朱が厄除けや疫病除けの意味があるかららしい。
- 中核稲荷神社の赤鳥居は伏見には、数こそ及ばないが見応えがあり感動的である。階段もゆうに100段を超えるのではないかとと思われる。全体的にもこの地は古色蒼然とした趣が漂っていて昔から由緒ある場所だったと思われる。
- 公園全体も静かな和風の佇まいである。



池の見える平らな石の上から見た林立する鳥居。池に映える鳥居とのコントラストが美しい



しっかりとした姿で続く林立する赤い鳥居。池の水面に映える赤い鳥居



後背をつけたきれいな顔の観音菩薩さま



きれいな顔、スックと立ったきれいな容姿の観音さま



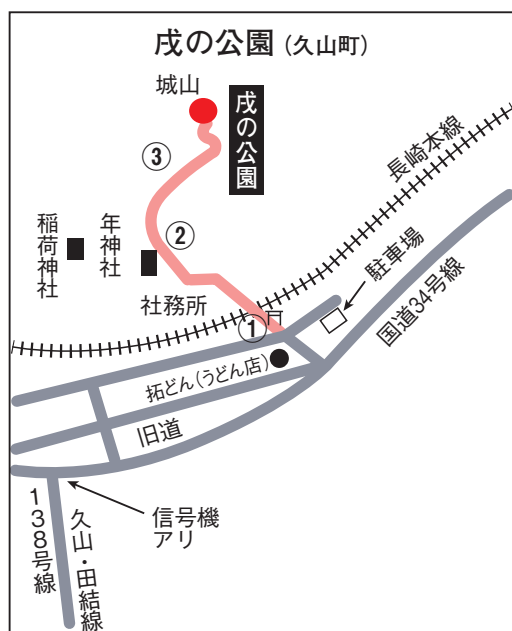
後背をつけた観音菩薩さま、公園全体を見守っておられる

『地域の宝 十二支公園』



戌いぬ

の公園 (久山城山公園) …久山町



松浦党の山城跡(本丸跡)と思われる広場である。緊急時には武装した集団が集まる。周辺には武者走り跡や曲輪跡がある



兄弟神として知られる「大年神」と稲荷神社の「御祭神」であるが、同じ境内に祀られている



うどん店(拓どん)裏手の参道入口の鳥居



年神社登り口の階段



年神社境内横の登り口
(20分程度で頂上に至る)

戌

中世時代、大村湾に睨みを利かせた松浦党の山城跡
由緒ある年神社・稲荷神社を擁する城山山麓



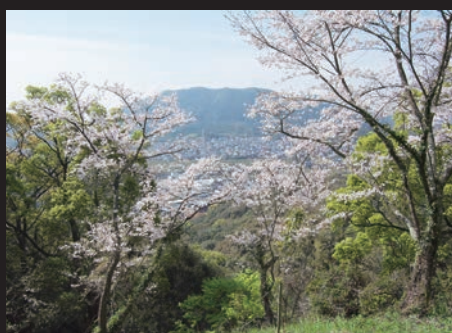
11 いぬ 戌の公園（久山城山公園）……久山町

【P、WC アリ】

久山の城山にあるこの公園は諫早市西部の城山の高台に位置し、頂上からは西陵高校をはじめ急速に宅地化が進んだ久山台の市街地が一望できる。北の方向には大村湾が垣間見え、中世時代に松浦党がこの地に進出し、大村湾に睨みをきかせた要所として山城が築かれたらしい。（戦国時代初頭の西郷氏の資料の中の十の支城の中には久山城は入っていません。）

麓には文禄年間に創建された「年神社」や明治時代に創建されその後再建された「久山稲荷神社」がある。年神は、五穀豊穰・商売繁盛はもとより家庭に幸せをもたらす神でもあり、この地は歴史的にも謂れのある場所なので寄ってみるのも意義がある。

城山の山頂までは、年神社境内にある登り口から約20分程度で辿りつける。



頂上近くの桜の花咲く樹間から見える久山台の町並み



青色の幟旗がはためく「年神社」の境内



桜の花が見下ろす「年神社」と境内



久山年神社と五穀守護神塔

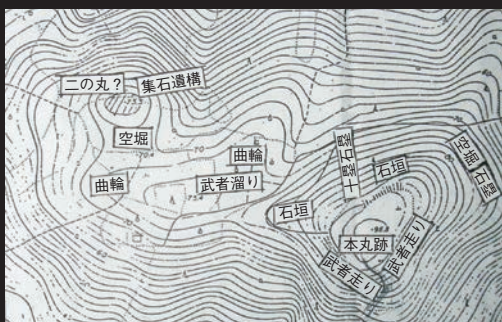
- ある年のこと、稲の害虫発生に困り果て、住民一同でご神霊を勧請して祈願したところ被害が治まり、宮の元に神社を創建したという。その後も堤防が決壊する被害があり、海で祈願したところこれも治まった。これが元になって五穀豊穰の神であるのにも拘らず、ここの御神体は、船形の御神座に乗っている大変珍しい様式となっているようだ。
- 昭和年間に社殿建設、大改修が行われ、現在に至る。屋根部分の形が面白い。
- 城山の頂上には、五穀守護神塔が建立されている。諫早は古くから穀倉地帯であったといわれているのでそのことと関わりがありそうである。五穀豊穰の神として年神社と共に祀られているものと思われる。



久山年神社の御祭神『大年神』と久山稲荷神社の御祭神とは兄弟神と伝えられている。久山の神社は、年の字を大事に使っていて、幟旗にはほとんどこの字を使っているが、ここの大鳥居には「歳」の字が刻まれている



年神社の幟旗が社務所前から神社本殿まで続いている



く石垣を多用した壮大な山城だったと想像される。大村湾を見渡す場所として、この城は大村湾全体に睨みを利かせた海路確保上の重要な一大拠点だったということができそうである

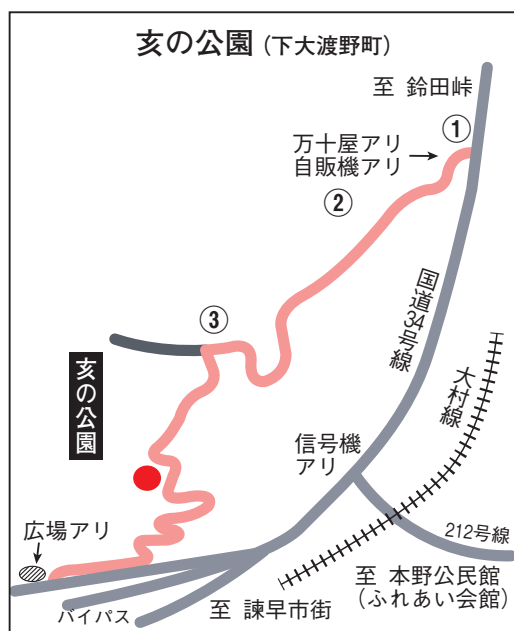
久山城は中世山城と伝えられ、松浦党の山城として築城されたもので、高城（諫早公園）を凌ぐ規模で、諫早最大の山城と言われている。本丸から二の丸、三の丸、曲輪、武者走り等があったらしい

『地域の宝 十二支公園』

イノシシ 亥



の公園 (諫江見渡しの丘) …下大渡野町



34号線鈴田峠手前を左へ登る



四叉路を矢印方向に登っていく



配水池のフェンス近くからゆっくり下っていく



この広場を活用して昔は神武さん祭りがあり、観客席と相まって相当賑わっていたものと想像される



昔は神武天皇の石碑の前へ至る広場で“神武さん祭り”という行事が行われていたと思われる

亥

古代を偲ぶ神武天皇の石碑
垣間見える諫江見渡しの丘桜の名所



12 亥の公園（諫江見渡しの丘）……下大渡野町

【P、WCは簡易トイレ】

下大渡野地区は諫早の母なる川、本明川の源流に近い本野町の南部にあり、支石墓群（ドルメン）で有名な風観岳の中腹付近に位置しているのがこの公園である。

この地からはすそ野に広がる田園地帯が一望できる所であったといわれているが、今は樹木が繁茂して見えにくい。桜の木が数本あり、桜の季節は心和める場所である。

以前は、この地で地元の人たちによる「神武さん祭り」といわれる祭りが実施されていたらしく結構賑わっていたという。周辺地域の人たちの交流の場であったらしい。公園の裏側に廻ると「神武天皇」の大きな石碑が建立され、手厚く祀られている。草地がよく刈り込まれ、ハイキングにふさわしい安らぎの公園と言える。



老若の桜が数本あり、桜の時期は花一杯となり楽しむ場所としては素晴らしい所である



神武さん関係の厳かさと桜の花の華麗さとが対照的に感じられる風景として大変おもしろい場所である



右側の登り階段（矢印）から広場へ出て「神武さん祭り」は最高潮に達したと思われる



神武天皇碑

- ・初代天皇として知られる神武天皇は、神話の世界で「神武東征」として説明される。
- ・九州を出発して中国地方の各地に滞在しながら東に向かい、途中荒ぶる神々を服従させ大和を平定した。後、天皇として即位して、天下を治めたという話の中に登場する。
- ・神武天皇と亥の公園との関りを訪ねて回ったが、遂に解らず仕舞いに終わった。風観岳の支石墓に関わる稲作渡来民との関係があるのかもしれないと考えたが、よく分からなかった。



「神武天皇遙拝」と読み取れる。遙拝とは遠く離れた所から拝礼するという意味らしい



神武天皇碑が明治33年、記念祭碑が昭和54年とあるので、およそその間が100年と解される



亥の標識のある公園広場であるが昔は祭りを楽しむ人たちの憩いの場所と思われる。今では桜を楽しむ場でもある



経路②の曲り角付近に祀られている薬師如来と思われる観音菩薩さん。集落の人たちが手厚く祀っておられるようだ。

『地域のイチオシ 四支公園』

イマイ 乾 はん



の公園 (琴ノ尾公園) …多良見町



33号線の峠のトンネルを過ぎてすぐに右折する。琴ノ尾山の標識もある
(①は地図上にない)



この道は旧道でもある三叉路を左折すると琴ノ尾山に至る
(②は地図上にない)



烽火台跡に向かう場合の駐車場付近。数台可能。③内の道路脇を下ると烽火台跡に着く



山頂の琴ノ尾神社、どっしりとした鳥居の奥に二基の厨子がある。右側が普賢菩薩で、左は琴ノ尾大神が祀ってある



山頂から下った斜面にある「のろし台」の跡である。石組で丸っこい台はよく整備されている。焚き口(風穴)が見える

乾

頂上からの大パノラマ、大勢で遊べる大広場
急変を知らせる烽火台、昔を語る学習広場



13 いぬい 乾の公園 (琴ノ尾公園) ……多良見町

【P、WC 公園内の駐車場奥】

琴ノ尾公園は、長与町との境界にある琴ノ尾岳（451m）の頂上付近にある。山頂一帯は整備されており眺望が素晴らしい。大村湾や多良山系、長崎空港等が遠望できる。山麓は一面のミカン畑が広がっていて実りの秋には斜面一帯をオレンジ色に染め上げる。また、山頂には琴ノ尾神社が祀っており、どっしりした鳥居の奥には厨子二基がある。普賢菩薩と琴ノ尾大神が安置されている。山頂付近の傾斜地には、「琴ノ尾岳狼煙（のろし）場跡」がある。現在残っているのろし台は、整備され学習の場としてふさわしい。わかり易い説明板もあるので参考になる。また、頂上から一段下がったところに大きな広場がある。ソフトボールやサッカーができる広さは十分あるので、工夫次第ではいろいろな遊びが出来そうである。景色も上等である。



石造りの厨子なので重厚な感じがする。右側には普賢菩薩、左側には琴ノ尾大神が祀られている



この広場は、スポーツが楽しめる。サッカーやソフトボールなど工夫すればいろいろな遊びができそうである

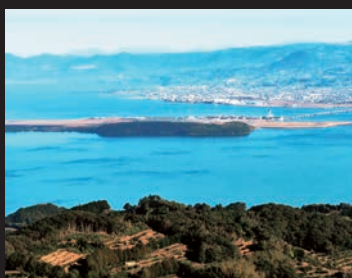


のろしを上げる木材に火を付ける焚き口と思われる。風穴でもあるので一気に燃え上がるのであろう



烽火台跡

- ・琴ノ尾岳の烽火（ほうか）台は、登山道路の途中の斜面にある。烽火台跡は石組みで原型を良くとどめている。火入れ口が3カ所あり、火入れ口は風の通り道（風穴）でもある。
- ・長崎に異変が起こったときには、長崎の烽火山（ほうか山）から受け継いで平戸の方へ通報する仕組みになっていた。ところがその機能が十分に発揮できず廃止されてしまった。廃止された以降は、狼煙（のろし）に変わって飛脚が走って通報したという。
- ・江戸時代急変を知らせるために建設された琴ノ尾「烽火台」の総構えである。写真の中段右側に焚き口（風穴）が見える。



道路脇の絶好ポイントから見えた大村；長崎空港。遠景は多良山系



のぞみ公園の桜の季節の公園入口。花一杯で美しい。園内にもいろんな施設がある。子どもから大人まで楽しめる



正式和名は「シャシャンボ」という。大木に育ったシャシャンボ（ツツジ科の仲間）の群落には圧倒される



のぞみ公園内には遊戯広場をはじめゲートボール場、パターゴルフ場、ローラースケート場などがあり、会館内には展望浴場などもある

『地域のイチオシ 四支公園』

ment 坤 こん



の公園(月の丘公園)…飯盛町



飯盛東小学校下の信号を右折して、北方向に向かい、三叉路を左折する



道路右手の桜並木を進むと公園への東入口が見えてくる



温泉入口の北口から直進すると公園の駐車場が見えてくる



遊具広場から見た体育館・テニスコート・運動広場、右手に相撲場、手前右手の白屋根はトイレ、黄色い施設はローラースライダー



この道路脇の桜並木は長崎海洋気象台の開花より早めに咲く、早咲き桜である(4/3撮影)

坤

温泉施設・豊富な遊具を誇る「月の丘公園」
利用者多数 体育館・運動広場・テニスコート



公園の遊具施設には、テント型のトランポリン、ローラースライダー、赤鼻の象を連想させる体がくねる滑り台など、コンビネーション遊具が揃っている。子どもを飽きさせない工夫があり、子どもにとっては楽しみ一杯の場所である。心弾む集いの公園で、休日は結構賑わっている。

この園の近場には、自然散策コースが何コースもある。森林浴、四季折々の種々の花見、風の香りを感じ、鳥のさえずりを聴くなど心癒しの場所が揃っている。中でも桜の季節、梅の季節、ツツジの季節、紫陽花の季節、紅葉の季節などおススメである。高台には展望台もあり、干拓になった開平野の眺めが堪能できる。

体育施設としても豊富で、体育館ではバスケの利用者が多く、4面あるテニスコートは利用率も高い。広い運動場は、野球が特に土日祝日は利用者が多い。温泉施設も待っている。(歩行湯もある)



東入口から少し登った所のツツジの花が咲き始める頃に桜広場の花がよく見える



桜の木の下は桜広場へ、右側の道は登り詰ると芝生広場、別名ピクニック広場で舞台もある



アジサイ園は結構広く、花が咲く季節には楽しめる場所である



第2展望台周辺のもみじ。紅葉したもみじの中に第2展望台の姿が見える



風と太陽の塔 (モニュメント)

- このモニュメントは、自然と人々が共生していくためのシンボルとして建てられ、緑豊かな木々に囲まれて光り輝いている。太陽からのエネルギーと海と山に吹く風からのエネルギーを大きく取り込み、『太陽』と『風』の恵みを感じ取ってほしいという願いが込められている。訪れた人びとの幸せを願いながら高台の上から見守り続けている。
- 月の丘は、公園の隅々まで自然の恵みがふんだんに散りばめられていて、花と緑と遊具とが皆さん方のおいでと触れ合いを待っている。
- 健康寿命の延伸にも役立つ施設も揃っていて、各所にある運動施設で心身を鍛え、温泉で体を癒す場所ともなっている。丘の上にそそり立つモニュメントは、このような思いを込めたものといえよう。



象さん型のクネクネすべり台、すべり始めると体がくねっておもしろい



象さん型すべり台の登り口、右側はイボイボの突起を登る。左側は積み木状の階段を登る



象さん型裏側のすべり台。幼少期の子どもには最適。(右側に積み木状階段がある)



遊具広場への登り階段横のモグラトンネル。網目状のトンネルをもぐって登ると結構楽しい



登り階段中段からの波型すべり台。波状に浮く感覚が楽しい



遊具施設屋上のテント型遊具トランポリン。一番人気のようなのである



屋上から下りてトンネルを通ると地上までたどりつく



遊具施設の黄色屋根の出発地点から始まるローラースライダー。ゴロゴロと楽しく滑れるのでおもしろい

『地域のイチオシ 四支公園』

さん 巽



の公園(五穀公園)…森山町



① 森山愛野を走る57号線でY字路を矢印方向へ入る



② しばらく行くと交差道路が現れるので山手の方へ向かう



③ ゆっくり登っていくとT字路が出てくる。山手に向かう



展望台下からの眺望。遠景は有明海、中景は諫早湾と三ツ島の一つ、手前には干拓地が見える



この広場には車数台は駐車可。階段下の先の方からは干拓地が見え、その歴史などの説明板もある

この石段を登り詰めると小さい広場があり、五穀さんと呼ばれる石碑が五基、整然と並んで祀られている

巽

祭神「八大龍王」並び立つ五基の五穀さん
広大な諫早平野を見渡す大パノラマ展望台



15 たつみ 巽の公園（五穀公園）……森山町

【P アリ、WC は駐車場手前の左手にアリ】

釜ノ鼻駅前の国道57号線を愛野方面へ行った所のY字状道路を右方向に暫く行くと梅野公園からの交差点に辿り着く。山手に上る道を選んで登っていく。三叉路から山手に向かっていくとほどなく五穀公園の駐車場に辿り着く。石段を登り詰めた山頂に五穀さんが五基、南北に立ち並び東向きに整然と建てられている。一番左側の石祠内に八大龍宮と刻まれた石碑がある。八大龍王は、水の神、雨乞いの神で五穀豊穰を願い農業者の安全祈願をする神である。五穀さんは古くは文化年間建立、次いで天保年間・安政年間と続き、南北方面に整然と並んで建てられている。

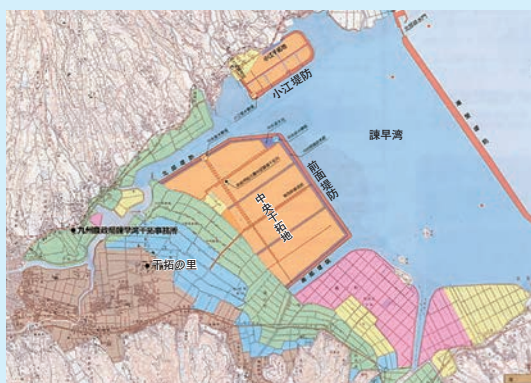
展望台からは、多良岳を背景に広がる干拓の歴史を物語る諫早平野全体が眺望できる。また諫早湾を遠望する田圃や、雲仙の峰に抱かれる愛野方面まで広い範囲を見渡すことができる。



多良岳から諫早湾、雲仙岳まで見渡す大パノラマは諫早干拓地全貌を観望できる展望台が建設されている〔この写真が冊子（ガイドブック）の表紙に採用されました〕



八大龍宮と刻まれたこの塔は整列する五穀さんの一番手前（左側）に建立されている。見渡せる干拓地の五穀豊穰と人々の幸せを願っておられる



【諫早干拓の歴史】

干拓の歴史（色別年代）	
平成	茶色（中央干拓地）
昭和	ピンク色
明治・大正	黄色
150～200年前	緑色
200～300年前	青色
300年以前	黄土色

- 諫早干拓は、陸地方面から徐々に沖合に向かって、干拓工事が行われた。江戸時代から始められた干拓は、新田開発の目的に叶う唯一の方法であった。時の領主にとっては、重要な課題であったと思われる。昭和の後期頃になると機械が発達して干拓工事もどんどん進み、中央干拓地は大きく広がったが、予定していた先端部までは干拓は行われず、上の地図でも分かる通り森山地区の干拓地（ピンク色）の湾沿い並みに、今のような干拓地の形に干拓が進んだ。（地図の右側の干拓の進み具合がわかる色別表にも注目して学習の参考にしてください。）
- 養殖業としてのカキやアゲマキなどの歴史にも、浮き沈みがあったようである。養殖開始当初からカキ養殖の増産に力を入れたが、減退の一途をたどったといわれている。カキ養殖は最近また復活し、ブランド商品が生産されるまでに成長している。商品名は華漣（かれん）という名で、注文があれば全国各地へ送ることが出来るということである。



南北に並び、東向きに整列された五穀さんたち。一番手前が八大龍宮塔である



ツツジの花の合間に広がっている森山の干拓平野

『地域のイチオシ 四支公園』

良

16 「高来町」イチオシ公園 ①しゃくなげ高原

多良岳広域林道沿い

【P 有り、WC (修多羅の森)】



- 白木峰を通り青少年自然の家を過ぎると多良岳広域林道と交差。右折して、修多羅の森公園を通過すると間もなく「しゃくなげ高原」の看板が見えてくる。
- 遊歩道も広く整備されていて、諫早湾や雲仙岳を望む展望も素晴らしい。
- 世界に1000以上の種類がある中「ツクシシャクナゲ」が最も美しい名花である。
- 花期（4月下旬～5月上旬）濃い桃色の蕾からしだいに淡い色に変化していく様子も見応えがある。
- 「ツクシシャクナゲ」はシーボルトにより世界に紹介された。
- 近くの道端では、めずらしい草花もいろいろ見つけれられて楽しい。



単独シャクナゲ



花のつくり（ツツジと比較）



象岩とシャクナゲ



白花シャクナゲ



道端の草花



① 青少年自然の家を右手に見て矢印方向へ直進



② 広域林道と交差したら右折して林道へ

良

華やかさ、気高さを感ずる石楠花群落



【P、WC有り】

『地域のイチオシ 四支公園』

イチオシ 良

17 「小長井町」イチオシ公園 毘沙天岳公園

- ・登山道入口に「駐車場」
- ・中腹の桜公園に「トイレ」



小長井富士（高さ161m）

- 国道207号線を佐賀方面へ進み、県境手前の「釜」バス停のY字路を「遠竹小学校」の標柱を目印に左折する。さらに100m程先を左折して小学校門前を通り過ぎ300mほど進むと登山道入口に到着する。（右側に広い駐車場がある。）山道は舗装されていて登りやすい。
- 登山道を10分程登ると登山道と交差する道路がある。さらに5分程で広場がありベンチで休憩できる。階段を10段ほど登ると頂上「一番岳」に到着。石垣台座に毘沙天さんが祀ってある。有明海を通る船の航路目標や蟹かご・カキ棚の位置を知る三角点の目印となっている。
- 広場に戻り、左へ10m程進むと大岩の「二番岳」。金比羅さんの石碑がある。大岩の上からは、眼下の柳新田や有明海・雲仙岳の眺望がすばらしい。左方面には竹崎島も見える。
- 山道添いには、板状溶岩（岩脈）を利用した大きい石碑が並んでおり、春には桜の花で埋まる。
- 裾野には、竹崎街道が通っており、中世の山城跡や一族の墓所2カ所もある。



◆頂上（一番岳）の毘沙天さん



◆二番岳からの展望（雲仙岳）



二番岳頂上



山道沿いの桜



板状の石碑群



裾野の竹崎街道

（右上の地形図）



国道207号線のバス停釜Y字路の左手を直進



矢印のように左折してガード下を通る

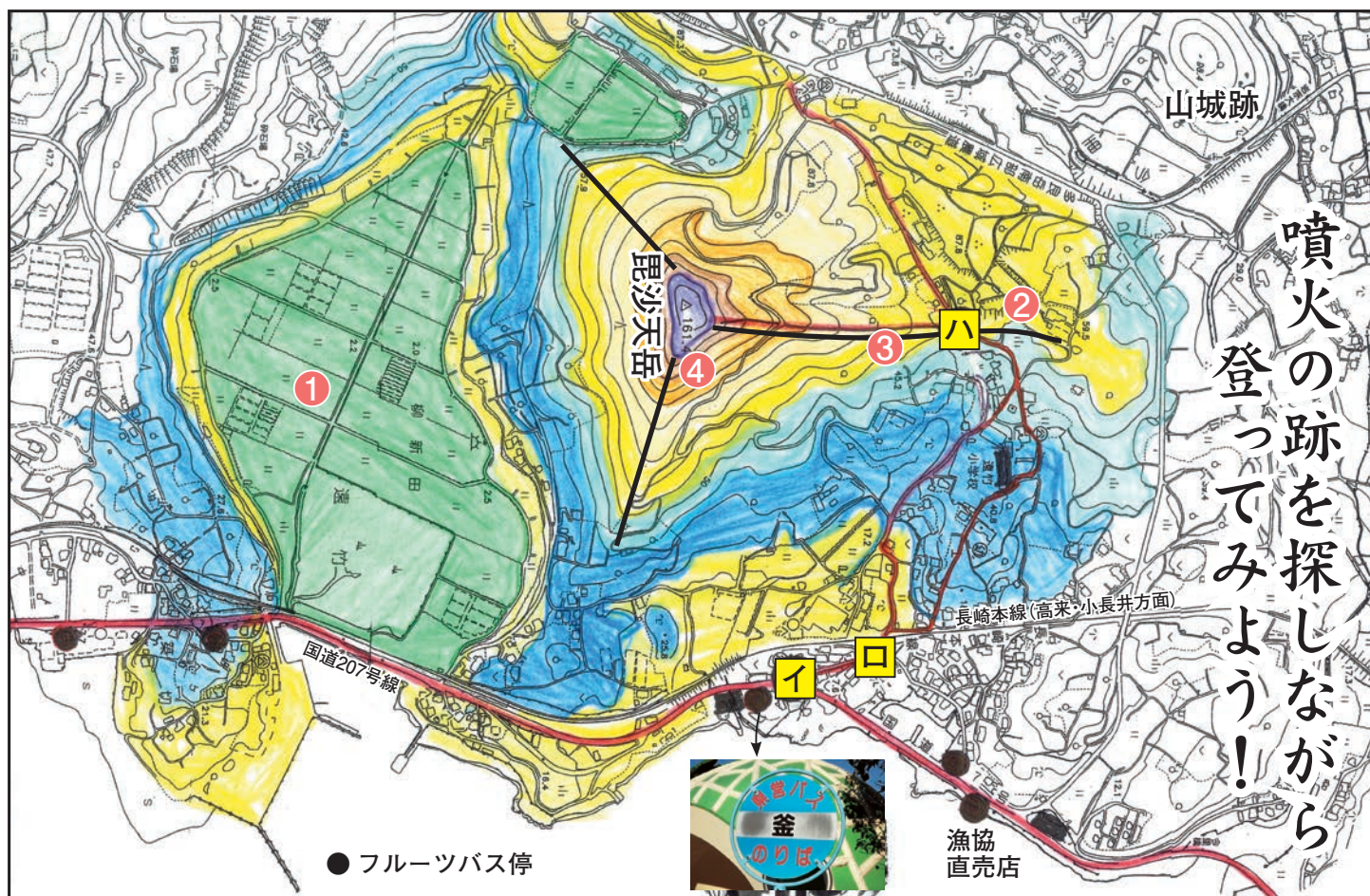


左折すると登山道入口（入口の横が駐車場）

良

悠久の昔を語る
火山活動の跡を残す小長井富士





噴火の跡を探しながら
登ってみよう!!

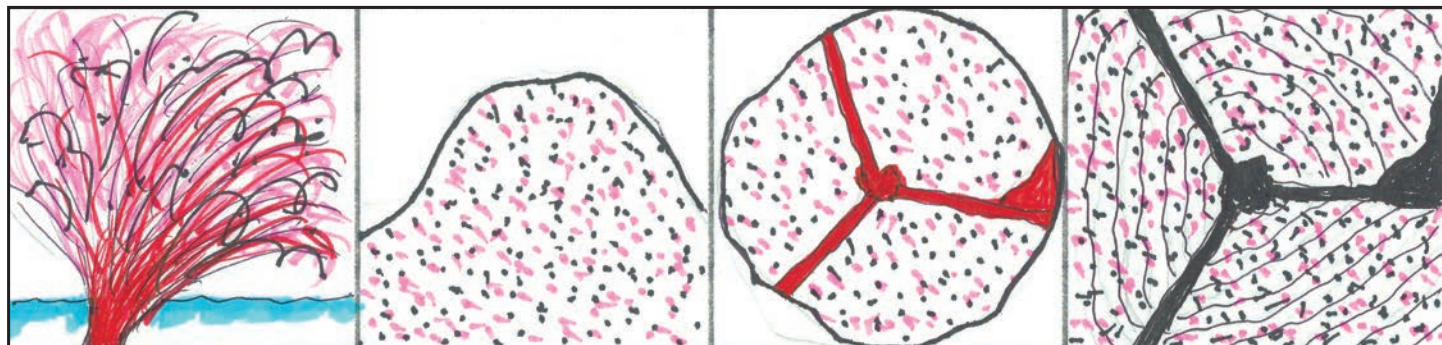
● 毘沙天岳は【火山の噴火】で出来た山

「毘沙天岳の3方向に出ている黒の太線は岩脈（板状溶岩）」

《柳新田を火口とするマグマ水蒸気爆発【噴火】による火山》との説がある。

出来るまでの『イメージ図』

～ 今から、およそ300万年ほど前 ～



柳新田付近(?)でマグマ水蒸気爆発（噴火）が起こる。地形図の①の場所（柳新田）

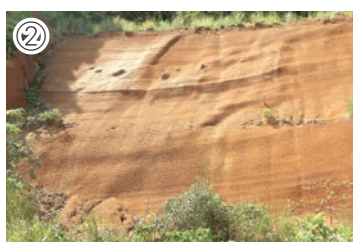
大量の火山噴出物（スコリア）が北寄りに積もって山の原型が出来る。地形図の②の場所でその一部を観察できる。（登山道入口の逆方向20m付近）

その後、三方向に割れ目が出来て地下のマグマが上昇してきた。（岩脈）地形図③の場所（登山道を暫く登った左側の広場）

長い間風雨の浸食を受けて岩脈が三方向の尾根となり現在の毘沙天岳となった。



① 柳新田（火口跡?）



② 「スコリア層」



③ 「岩脈」(板状溶岩)



④ 「竹崎島」(同じ頃出来た海底火山島)



● 名所 (見どころ)

希望の光^{しよ こう}〔曙光〕

（春の曙光 菜の花の季節）



（秋の曙光 コスモスの季節）

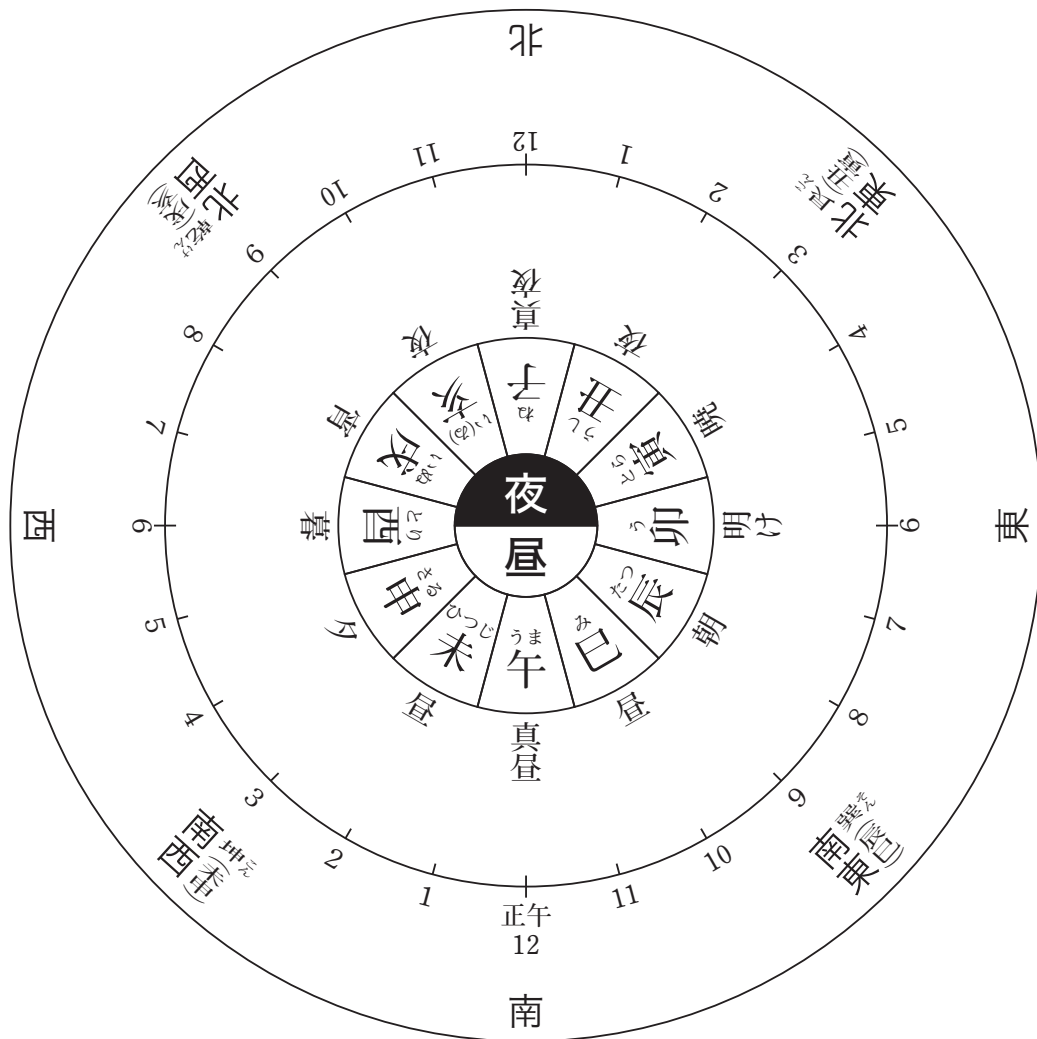


【希望の光】

白木峰高原は春の菜の花・秋のコスモスの季節は多くの人々が訪れます。とくにこの時期はプロ・アマを問わず全国から多くのカメラマンが集まってきます。日の出前後の一瞬の輝きを狙って泊りがけの撮影場所となっています。このような魅力ある場所にさせていただいた白木峰高原育成会の皆様に感謝しながらシャッターを押した2点です。（撮影：前波政昭）

方位時刻

十二支による時刻のさし方には、子の刻を午前0時後の二時間とするものと、0時前後の二時間とするものとの二通りがある。



十干十二支

数字は順序を示す。甲子^{きのえ}から始まって癸亥^{みずのへ}の六〇まで数えたら、六一はまた甲子へもどる。

五行 えと 十干十二支

水 ^{みず}		金 ^{かね}		土 ^{つち}		火 ^ひ		木 ^き	
弟と	兄え	弟と	兄え	弟と	兄え	弟と	兄え	弟と	兄え
(10) 癸酉 ^{みずのと}	(9) 壬申 ^{みずのえ}	(8) 辛未 ^{かのと}	(7) 庚午 ^{かのえ}	(6) 己巳 ^{つちのと}	(5) 戊辰 ^{つちのえ}	(4) 丁卯 ^{ひのと}	(3) 丙寅 ^{ひのえ}	(2) 乙丑 ^{きのと}	(1) 甲子 ^{きのえ}
(20) 癸未 ^{みずのと}	(19) 壬午 ^{みずのえ}	(18) 辛巳 ^{かのと}	(17) 庚辰 ^{かのえ}	(16) 己卯 ^{つちのと}	(15) 戊寅 ^{つちのえ}	(14) 丁丑 ^{ひのと}	(13) 丙子 ^{ひのえ}	(12) 乙亥 ^{きのと}	(11) 甲戌 ^{きのえ}
(30) 癸巳 ^{みずのと}	(29) 壬辰 ^{みずのえ}	(28) 辛卯 ^{かのと}	(27) 庚寅 ^{かのえ}	(26) 己丑 ^{つちのと}	(25) 戊子 ^{つちのえ}	(24) 丁亥 ^{ひのと}	(23) 丙戌 ^{ひのえ}	(22) 乙酉 ^{きのと}	(21) 甲申 ^{きのえ}
(40) 癸卯 ^{みずのと}	(39) 壬寅 ^{みずのえ}	(38) 辛丑 ^{かのと}	(37) 庚子 ^{かのえ}	(36) 己亥 ^{つちのと}	(35) 戊戌 ^{つちのえ}	(34) 丁酉 ^{ひのと}	(33) 丙申 ^{ひのえ}	(32) 乙未 ^{きのと}	(31) 甲午 ^{きのえ}
(50) 癸丑 ^{みずのと}	(49) 壬子 ^{みずのえ}	(48) 辛亥 ^{かのと}	(47) 庚戌 ^{かのえ}	(46) 己酉 ^{つちのと}	(45) 戊申 ^{つちのえ}	(44) 丁未 ^{ひのと}	(43) 丙午 ^{ひのえ}	(42) 乙巳 ^{きのと}	(41) 甲辰 ^{きのえ}
(60) 癸亥 ^{みずのと}	(59) 壬戌 ^{みずのえ}	(58) 辛酉 ^{かのと}	(57) 庚申 ^{かのえ}	(56) 己未 ^{つちのと}	(55) 戊午 ^{つちのえ}	(54) 丁巳 ^{ひのと}	(53) 丙辰 ^{ひのえ}	(52) 乙卯 ^{きのと}	(51) 甲寅 ^{きのえ}

十二支の守り本尊とご利益

- 1 ^ね子 の公園（緑豊の里）本野町……守り本尊＝**千手観音**
・すべての悩みから救済し、願いをかなえてくださる菩薩さま。
- 2 ^{うし}丑 の公園（赤岩と名水広場）大場町……守り本尊＝**虚空蔵菩薩**
・限りない福德円満、大いなる知恵と記憶力を授けてくださる菩薩さま。
- 3 ^{とら}寅 の公園（青岩と観音の滝）御手水町……守り本尊＝**虚空蔵菩薩**
・無量の福德円満、大いなる知恵と記憶力を授けてくださる菩薩さま。
- 4 ^う卯 の公園（龍王広場）長田町……守り本尊＝**文殊菩薩**
・苦勞・災難疫病を断ち切り、無辺の英知を受け、延命と長寿をもたらす菩薩さま。
- 5 ^{たつ}辰 の公園（赤とんぼ広場）小野島町……守り本尊＝**普賢菩薩**
・慈悲と英知の徳で人々を救済し、長寿をもたらしてくださる菩薩さま。
- 6 ^み巳 の公園（宗方公園）宗方町……守り本尊＝**普賢菩薩**
・慈悲と英知の徳で人々を救済し、長寿をもたらしてくださる菩薩さま。
- 7 ^{うま}午 の公園（平家と大杉の里）小川町……守り本尊＝**勢至菩薩**
・知恵を表し、苦難と災難を避け、平安を招いてくださる菩薩さま。
- 8 ^{ひつじ}未 の公園（南風の海浜広場）早見町……守り本尊＝**大日如来**
・密教界最高の位の仏格を表し、永遠の繁栄を招いてくださる如来さま。
- 9 ^{さる}申 の公園（天狗と大蔵の里）土師野尾町……守り本尊＝**大日如来**
・最高仏、絶対仏と言われ、自覚・内省・悟りを司り、徳を授けてくださる如来さま。
- 10 ^{とり}酉 の公園（蔦木の森）津久葉町……守り本尊＝**不動明王**
・悪魔や煩惱を断ち切り、幸運と繁栄を招いてくださる明王さま。
- 11 ^{いぬ}戌 の公園（久山城山公園）久山町……守り本尊＝**阿弥陀如来**
・大慈悲の力で深い悟りを与え、精神の救済を実現してくださる如来さま。
- 12 ^い亥 の公園（諫江見渡しの丘）下大渡野町……守り本尊＝**阿弥陀如来**
・脇侍とされる聖観音と勢至菩薩に守られながら、西方の極楽浄土を司り、慈悲の心を授けてくださる如来さま。

艮

うしとら

巽

たつみ

坤

ひつじさる

乾

いぬい

おもしろ十二支考（順番決め編）

* 鼠（ねずみ）が1番、牛（うし）が2番となったわけ

古の中国での話。十二支の順番を決めるために天帝の住む宮殿に動物たちを呼び集めることになった。正月の一日正午（12時）に召集をかける触れを出した。このことを逸早く耳にしたのは、牛と鼠であった。牛は自分がのろまなことが分かっていたので、前の晩から眠ることができずその日を待った。その時鼠がやってきたので小競り合いがあったが、ほんのしばらく仮眠することにして、その後一緒に宮殿に向かうことにした。なかなか眠れずにいたところに鼠が牛の傍に寄ってきたのでやっと眠りについた。……翌日、牛は宮殿に向かった。自分が一番だと思い込んで宮殿の前まで来たとき、鼠がいないことに気づいた。悠々と天帝の前に進み出たまでは良かったが、牛の頭に乘っていた鼠が天帝の前に飛んで出たので、鼠が運をつかんで一番先頭になった。しかし牛も黙っていない。とうとう口論となった。天帝にその判断を任せることにしたが、天帝も力自慢の牛がよいか、賢い鼠がよいか判断がつかず、そろそろと牛の後ろからやってきたほかの動物たちの判断に任せることにした。十二支を代表するまとめ役にふさわしいのは賢い鼠だと主張したのが寅、卯、巳、午、戌の五支、力の強い丑がよいと主張したのが、辰、未、申、酉、亥の五支となり、5対5で判断が分かってしまった。そこで、天帝も仕方なく思い悩んだ末に、街の人々に鼠か牛かを決めてもらうことにした。

鼠は困った。街中を牛と一緒に歩いていくには、小さすぎて人に見てもらえないと思い、天帝に2倍の大きさにしてもらいたいと泣きながら訴えた。天帝もそれもそうだと納得し、牛も承諾した。大きくしてもらった鼠が牛と一緒に歩いていくと、街の人たちは鼠の大きさに驚嘆した。人々は大きい鼠にだけ注目し、牛の姿には目もくれなかったので、この問題は鼠が一番になり、牛が二番となって決着した。

順番をほとんど気にしないほかの動物たちは、牛の後に順々に決まっていった。

* 猫が選ばれなかったわけ

猫もこのうわさを聞いたのだが、よく内容を覚えていなかったので仲良しだった鼠に聞いてみることにした。鼠は悪知恵を働かして、その日が1月2日だと教えた。教えられた通り2日の正午に宮殿に着くと誰もいない。しばらく待ったが誰もこない……。そこで初めて騙されたことを知り、猛烈に腹が立ったので、鼠に食って掛かり、二度と騙されないようにと猫は鼠を見ると追いかけて回すことになったという。

* 犬と猫、犬と猿が仲悪いわけ

地球上にいるすべての生き物は仲良くあるべしと天帝から告げられ、最初は動物たちも仲が良かったのだが、犬と猫が、猫と鼠が、犬と猿が仲が悪くなり、仲が悪いまま元に戻らないで喧嘩が絶えない羽目になって現在に至っているという。

さて、猫と犬であるが、天地創造の天帝から告げられた動物の役割で、猫は家の中を守り、犬は家の外を守るようになっていた。ところが、家の中と外の守りといっても区別が難しくなかなかうまくできないので、役割分担を決めた誓約書を取り交わして約束を守る方式

をとって犬はその誓約書を猫に渡した。猫は、置き忘れないようにと屋根裏の片隅にきちんと仕舞っておいた。しかしいつの間にか鼠を見つけ出してかじってしまっていたというのが後ほどわかった。犬はイザコザが起るたびに猫に注意した。度々喧嘩になるので誓約書を見せるよう猫に伝えると猫は屋根裏に上って、その実状にびっくりして犬に報告したがどうしようもなかった。それからというもの猫と犬はいつもけんか腰になり、猫は鼠を見ると追っかけるという習慣が身についてしまったというのである。

猿と犬は、天帝からその習性をそれぞれ引掻くものと噛み付くものとに区別され、どうしても仲良くできない宿命を負わされてしまった。こうして最初から「犬猿の仲」になったというわけである。

* 十二支の中で、その順番が猿、鶏、犬の順になったわけ

十二支の順番で猿が早く【9番目】、犬が遅くなった【11番目】理由は、この両者の習性にあったのである。天帝のもとに出かけるとき、犬と猿と鶏とが一緒になってしまった。途中、しゅっちゅう猿と犬とが喧嘩状態になるので、困った鶏がその都度、飛び上がって蹴爪(けづめ)を武器に両者をなだめ、仲裁に入った。

一応喧嘩は収まるが、小競り合いが続く。牙をむいて、喧嘩っ早い猿が先に立ち、犬が続こうとするので鶏は仕方なくその中間に入り、そのまま宮殿目指して突き進んだ。こういうわけで、順番が猿一鶏一犬と決まったというのだが、今になっても「犬猿の仲」という言葉が現存するのである。

* 猪の順番が最後尾になったわけ

「猪突猛進」猪が最後になってしまったのにはやはり訳があった。ほかの動物より早く宮殿近くまで行ったのだが、曲がり切れずに直進【猛進】してしまい、先の方まで突っ走り、遠くまで行って気付いて後戻りしてみたが、宮殿に着いてみると最後尾だった。

天帝の創造した動物の習性が、十二支の順番を決める基になったというのは、皮肉なのか、創造主の天帝のイタズラだったのでしょうか……。



おもしろ十二支考（寿命編）

人生100年時代を迎えた今日、健康寿命も延びてきているが寿命100年には、深いわけがある。古の時代、世界を造った天帝との交渉の結果で勝ち取ったもので、天帝のもとに呼ばれた動物たちとのやり取りの中で決まったことだった。全ての動物が召集され、寿命と暮らし方が決められていった。

さて、最初に天帝が呼んだのは人間でした。両足で直立し世界の王様たることを命じ、必要な言葉と知恵を授けた。地上に生きる全てのものを支配し、寿命は30歳と告げた。人間は、これを不服として喜ばなかった。いくら面白く暮らしても30年では短すぎると訴えた。

次に呼ばれたのはロバだった。ロバには重い荷物運びを命じ、苦勞することと粗食することを進め、寿命は50歳と告げた。ロバはこれを喜ばず、そんな辛い目にあって苦勞しながらの50年は長すぎる、20年差し引いてくださいといった。それを傍で聞いていた人間は、天帝の許にしゃしゃり出て、その20年をくださいという望み通りになり人間の寿命が50年と修正された。

次に呼ばれた犬には、人間の家と財産を守り失わないようによく見張り、都合が悪くなったら吠えよ！食は、硬い骨と粗末な肉を食らって、寿命は40年と告げた。これを聞いた犬は震えあがり20歳で結構ですと断った。犬が望まないのであれば、その20年をくださいと人間が天帝に食い下がったので、人間の寿命が70歳となった。

天帝が最後の方で呼んだのは、猿でした。猿には、姿は人間だが、背が曲がり、やることは馬鹿で小児たるべし、寿命は60年と言い渡した。これを聞いた猿は弱りはて、有り難くないので半分減じて30歳で結構ですと断った。

それを聞いた人間はまたしゃしゃり出て猿の30歳をもらい受け、とうとう人間の寿命が100歳になったというのである。

かくて人間は、万物の長として天帝から賜った30年間は、何不自由なく暮らし、ロバから譲り受けた50歳までは、未来の備えのために蓄えることに苦勞することになった。犬から得た年を加えた70歳までは、蓄えてきたものを守るために戦々恐々となり、辛勞が続くことになった。猿から譲り受けた年齢を加えて70歳を過ぎると、背が曲がり、面相もゆがみ、小児めいて心も曇ってくるという一生になったという話である。



参考文献等

- ・「諫早市の文化財」 諫早市教育委員会
- ・「十二支関連 守り本尊等」 朝日新聞 広告欄
- ・「新選 国語辞典」 金田一京助 他2名 編
- ・「長崎県地学会誌」 長崎県地学会
- ・「諫早と松浦党」 諫早史談 第29号・第52号
- ・「十二支考（上）（下）」 南方熊楠 著
- ・「福を授ける神々物語」「図説 七福神」 伊藤光祥 著及び発行
- ・各種マップ 解説書等 諫早観光物産コンベンション協会
- ・久山神社 紹介パンフレット 久山神社 社務所
- ・旧五町 観光パンフレット等 及び 郷土誌 各図書館、支所 在庫
- ・小冊子「小長井町文化財」 小長井町発行

魅力発信広報委員

*会員【アイウエオ順】

相庭 哲男	大柳 君代	小柳 茂	佐田 昭雄	副島 猛俊
中野 勝利	計屋トミ子	林田 明	原田 米子	平野 朋哉
前波 政昭	峰松 終止			

広報活動協力者

*協力者【順不同】

原 明志 山口 公德 退職校長会会員 諫早市校長会
各公園地元自治会長 旧五町支所長・産業建設課（広報担当者）
諫早観光物産コンベンション協会 地域おこし協力隊
公立及び私立高校 鎮西学院大学 特別支援学校 各種学校
小長井町遠竹地区地元有志 高来町有志 本野町有志

【監修を終えて】

会員：写真担当 前波 政昭

諫早市内に埋没している多くの公園を里山魅力再生を願って写真の力で発信することにしました。個々の公園の良さを四季を通して撮影し、それぞれの魅力を伝えることができればと願って構成してきました。まだ十分ではありませんがこの冊子をもとに多くの方々が足を運ばれて「とによん（十二・四）公園」の魅力をみなさんに伝えていただければと願っています。

「とによん公園」魅力発信事業を終えて【経緯も踏まえて】

事務局 佐田 昭雄

令和2年12月はやぶさ2の生還のニュースは世界中を駆け巡り、話題沸騰。はやぶさ2はカプセルを予定通り帰還させ、さらなる役割を担って目指す新たな旅に出た。私はこのニュースに強く心を惹かれ、この魅力にとりつかれた一人だった。JAXAの試み成功は即座に私たちの活動に結びついた。私たちの活動から準えると、カプセルの到着成功はポスター・チラシの完成に重なり、さらなる新たな旅は、冊子【ガイドブック】作成を連想させるものとなった。同じ12月にはポスター・チラシが完成し、その活用を図りながら冊子づくりに進んだ。

令和3年3月やっと冊子の製本完了。着想から完成まで長い期間だった。…

人間として、一身一家の生活が安定していることだけで満足すべきではない。人間が天から授かった資質には、より高い務めを果たす力がある。社会の一員としてその立場を自覚し、社会の発展に尽くさなければならない。

福澤 諭吉『学問のすすめ』より 【学問の目的の概要】

この活動は、諫早市美術・歴史館前館長 鈴木勇次先生の館長講座『諫早の七不思議「十二支公園」はなぜ生まれたか』の講義を拝聴した時から始まり、着想したものでした。構想から活動が始まり足掛け5年、やっと広報資料3点セットが完成しました。ビタミンの卵事業からプロジェクト事業へと、コロナ禍をかいくぐりながら活動は進みました。皆様方の賛同と協力、多くの方の励ましと指導、支えがあつてのことと感謝しております。会員の協力のお蔭で、どこに出しても恥ずかしくない資料が出来上がりました。子供たちが手にとっても見やすくわかり易い構成となり、出かけてみたいと思わせる内容になっています。皆様方の身近な場所（学校、公民館、支所、図書館など）にガイドブックがありますのでご観覧ください。できれば親子で気軽に出かけてみてください。

故郷の宝、故郷の魅力を是非、感じ取ってほしいものです。一生を通じて故郷は、掛け替えのないものと思います。大いにこの冊子をご活用ください。

とによん(十二・四)公園 ガイドブック

発行／2021年(令和3年)3月

発行所／諫早市退職校長会とによん公園魅力発信広報委員会
〒854-0015 諫早市西小路町999-46

印刷／諫早印刷株式会社
〒854-0001 諫早市福田町20-26

会員イチオシの撮影スポット



戸石「牧島」



上山公園「駐車場池」



田結「上の島」



唐比「ハス園」



本野「富川溪谷」



本明「歳神社」



西小路「弘法大師堂」



諫早公園「眼鏡橋」



小長井「井崎」

●【事務局から】●

- * 「とによん公園」広報冊子（ガイドブック）の完成に当たり、魅力発信広報委員会【主に写真部会メンバー】の会員が、日ごろ撮影した写真の中から選りすぐりの「イチオシ撮影スポット」の写真を掲載しました。
- * 9点の作品は、写真部の定例会（月一回）に於いて選考の結果、収録したものの中から撮影スポットとして選ばれたものです。
- * 公園広報活動とは関係がないので敢えてこのページに展覧させてもらいましたが、お気に入りの場所がありましたら、現地確認をしていただいてご堪能ください。

